

## 小中学校に消毒スプレー寄贈

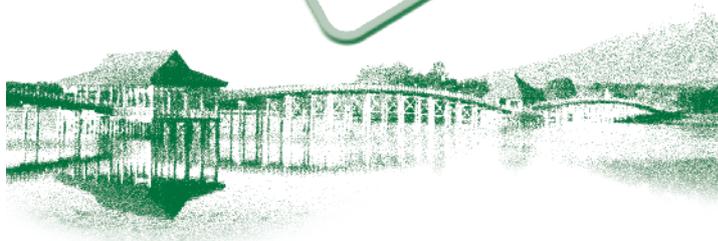
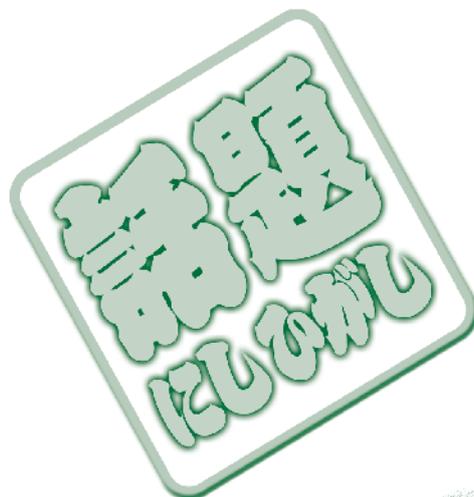
第一生命保険青森支社五所川原営業オフィスは5月10日（月）、地域貢献活動の一環で鶴田小学校と鶴田中学校に消毒用アルコールスプレーを寄贈しました。

同社は新型コロナウイルスの感染拡大防止に向け、県内公共団体などに対し予防資材の寄附を行っています。同支社関係者5人が鶴田小学校を訪れ、片山校長に消毒液（1ℓ）12本を贈りました。

片山校長は「児童、教職員合わせて本校には約600人おり、消毒液などは日々必ず使う物なので何個あっても足りない状況。児童を守ることにつながるので大変ありがたい」と感謝していました。



△片山校長（左）に消毒液を手渡す広田宗亮オフィス長（右）



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

## 農作業に親しんでふれあい農園

5月12日（水）、今年度の町民ふれあい農園の開園式が行われました。

町民ふれあい農園は町民に野菜作りなど農作業に親しんでもらうために、町が土地を借り受け、希望する町民に約半年間無料で提供しており、今回は16区画のうち、10区画の申し込みがありました。この取り組みは2012年から行われており、今年で10年目となります。

開園式で相川町長は「自ら育て、収穫した野菜を食べて、健康づくりや生きがいづくりに励んでもらいたい」とあいさつしていました。

参加した町民は役場職員から農園の説明を受けた後、自分の区画を確認。早速種を植えるなどの農作業を開始していました。



△職員から農園の利用について説明を受ける町民

## 彼岸にきれいに咲いて

農山漁村の女性リーダー「Vic ウーマン」に認定されている町の女性らが5月12日(水)、富士見湖パーク内の白衣観音堂の参道周辺に、ヒガンバナの球根約130kgを植えました。

この球根は友好交流都市の鹿児島県さつま町の「むつみ会」から贈られたもので、2018年から富士見湖の堤防や JR 陸奥鶴田駅の花壇などに植えられてきました。

4年目の今回は Vic ウーマンや間山地区の住民約15人が参加。同観音堂に至る階段状の参道脇に穴を掘り、5～6個ずつ球根を植えて丁寧に土をかぶせていました。

中心メンバーの瀬戸ひとみさんは「富士見湖パークは春夏と花がきれいに咲きますが、秋に咲くヒガンバナも見て楽しんでもらいたい」と話していました。



△参道に脇にヒガンバナの球根を植える参加者たち



△会員たちによって蛭が生息しやすい環境が整えられました

## ホタルが住み着く池のために

5月12日(水)、「ホタルを呼び戻す会」(澁谷勝則会長)が富士見湖パーク内のホタル池周辺の清掃を行いました。

富士見湖パークの蛭は一時期、姿を見せなくなりましたが、同会の地道な努力により近年ではわずかではありますが、毎年姿を現すようになりました。

当日の清掃活動には、同会の会員や役場職員ら6人が参加。池につながる小川の底に溜まった泥や砂利を取り除いたり、周辺の草刈りなどを行い、蛭が生息しやすい環境を作るために熱心に作業していました。

ホタルを呼び戻す会では、これからも蛭が生息できる環境を後世に残すために活動を行っていきます。



Vol.35 (筆: 山田俊)

ぶどうの【芽かき】作業が終わりました。【芽かき】とは小さい芽・枝の下側や枝の間から出ている芽など、不要な芽をとっていき作業です。不要な芽をとることで残した芽に養分が届きます！これからどんどん忙しくなるので適宜を逃さないように効率よく作業していきたいです。

3年間の協力隊としての任期ですが、6月で終了になります。町民の皆さんには色々な場面で声を掛けてもらい本当に助けられました。この場をお借りしてお礼を言わせてもらいます。ありがとうございました！任期後も鶴田町でぶどう農家として地道に努力していきますので、これからもよろしくお祈いします！(妻は任期が1年延長しましたので引き続きよろしくお祈いします)



△園地にて娘さんと戯れる山田さん

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。